Please translate the below (Japanese to English).

Character’s name

密 = Hisoka

志津香 = Shizuka

顔を上げると一羽の鴎が驚いて飛び立った。どうやら肩に止まっていたらしい。激しい太陽の陽射しが眼を貫いた。——俺は何をしてるんだ？

　密の意識はまだはっきりしていなかった。そのせいで前後のことが思い出せずにいた。あたりには人の気配がした。灼けた甲板がちりちりと密の肌を焼いたが、彼にはまだそれに気付く感覚が戻っていなかった。髭面の男が目の前をうろうろしているのが見えた。——ここは何処だ？

　近海で漁をしていた地元の漁船の網に二人の男女がかかった。二人は漁師たちの手で甲板に横たえられた。

「こりゃたまらん、ひでえ臭いだ」

　髭面の男は鼻をつまみながら密の顔を覗き込んだ。密は反射的に愛想笑いをした。頬の筋肉を動かすと唇がピリッと裂けた。痛みはなかった。

　男は目を丸くして叫んだ。「おい！生きてるぞ！」

　周囲にどよめきが起きた。密の視界は瞬く間に男たちの顔で埋め尽くされた。密のぼんやりした頭の中に志津香の顔が浮かんだ。そうだ。志津香だ。彼女はどうしただろう。

「え？」

　もぐもぐ何か言っている密の口に耳を当てて男が大声で聞き返した。

「･･･シズカ」

　しかし男には密の声が聞き取れなかった。別な男が割り込んで来て密に訊いた。

「一緒にいたのはお前の恋人かい？」

「･･････」

　不意の質問になんて答えていいのかわからなかった。密は男の顔を見た。そしてゆっくり首を横にふった。

「そうか」男が言った。そしてちょっとためらっていたが、やがて密にこう告げた。

「助からなかったよ、彼女は」

　密は横を見た。志津香の遺体が横たえられていた。全身に筵をかけられ、少しだけ足が覗いていた。

　密の片方の眼から涙が流れたが、密自身それには気づいていなかった。

Please translate the below (English to Japanese).

(from “Gift of Fire” Production Note)

In the midst of WWII, young Japanese researcher Shu and his team are assigned to work on nuclear fission. This group of scientists races the rest of the world to split an atom, a vital first step towards developing nuclear weaponry. Shu feels remarkable pressure to complete this task, as his step-brother, Hiroyuki, is sent to fight on the war’s front lines. The brothers, along with their best friend through childhood, Setsu, confront their complicated feelings for each other and their country as the war progresses and Japan’s chances of winning become more and more dire. Shu struggles to honor his obligations to science, his family, his country and his own morality in this pivotal moment in history.